

Local Area News

近代こけしコンクール開催

群馬県こけし(協)

群馬県こけし協同組合(岡本有司理事長、組合員19人)は、群馬県庁1階「県民ホール」において2月5日～9日の期間、第55回近代こけしコンクールを群馬県などと共に開催した。群馬の近代こけしは、作者の自由な発想によって色彩や形をデザインするもので、近年では国内だけでなく、ヨーロッパやアジアなどの海外においても注目を集めている。会場には、一品作である「創作こけし」、市場性のある「新型こけし及び木

地玩具」、一般から募集した「一般作品」の3部門からの近代こけし200作品以上を一同に展示した。来場者は、こけしの可愛らしい顔に、つい笑みがこぼれ、気に入ったこけしをカメラにおさめていた。



会場ではこけしの展示の他「即売会」や「絵付けコーナー」が設置され、即売会にはぐんまちゃんなどのキャラクターこけしや昨今、アジアでお土産用として人気の高いおかつぱ頭の着物を着た女の子を模したこけしなどが並んだ。また、来場者にこけしの人気投票をしてもらい、こけしの抽選会に参加してもらったイベントも催され、真剣に選ぶ姿が見受けられた。

富岡の魅力づくりを学ぶ

富岡市宮本町商店街(振)

富岡市宮本町商店街振興組合(名和清一理事長、組合員20人)は2月17日、富岡市・ホテルアミューズ富岡において「観光とまちづくり」地域の魅力の活かし方をテーマに講習会を開催した。講師は、観光まちづくりカウンセラーとして活躍する今村まゆみ氏。今村氏は、以前、国内旅行情報誌「じゃらんガイドブック」の編集長を務め、その経験を通じて得た知識を交えながら、まちづくりについて語った。観光客は現地ならではの体験を求める傾向が強く、旅行マーケットでは、特に女性の動向は重要な視点と指摘した。



今村まゆみ氏

また、今回初めて富岡製糸場を訪問した印象を披露し、「まちを上げての富岡のインフォメーション&ガイド機能」を強化することで、近隣の観光スポットへの回遊性を生み、訪問者の満足度を向上させることができると述べた。当日は、行政、近隣商店街や富岡製糸場の支援団体も参加し、今村氏の話に熱心に耳を傾けていた。

わけあり大処分開催

高崎卸商社街(協)

高崎卸商社街協同組合(松本修平理事長、組合員109人)では、2月18日、「ビッグキューブ」において、恒例の「わけあり大処分」を開催した。今回も組合員・賛助会員企業が多数出店。また、県内の卸団地との連携を目的に太田流通センター卸協同組合からも出店し、各社の在庫品・B級品を一般消費者に特別価格で提供した。当日は、冷たい雨が降る中、開催時間前、入口には約350人が並び、午前中には完売御礼の札が下がる商品も見受けられた。また、

LAW

タイムセールとして実施されたトイレットペーパーの格安販売では、買い求めるお客さんの長い列が会場内にでき、10分足らずで用意した200人分が売り切れとなった。



タイムセールの様子

人に優しい 商店街を目指して

沼田市中の会商店街(振)

沼田市中の会商店街振興組合

(中島庸一理事長、組合員27人)は2月20日、沼田市・ホテルペラヴィータにおいて「高齢者が生き生きと暮らせるまちづくり」をテーマに、(独)建築研究所主任研究員住宅・都市研究グループの石井儀光氏を招き講習会を開催した。

石井氏は、高齢者の「まごころからだ」の健康維持には、「外出すること」が重要であると述べ、高齢者が外出しやすい場所や施設づくりの視点が、まちづくりには求められると語った。さらに、同研究所で高齢者の生活行動を把握するため実施したアンケートを元に作成した『手引き』を紹介。同商店街が目指す「人に優しい商店街」の取り組みにも活用して欲しいと呼びかけた。



石井儀光氏

ICT活用による商店の 魅力アップを探る

太田市本町商店街(振)

太田市本町商店街振興組合(中村光雄理事長、組合員30人)では2月26日、太田市・太田グランドホテルにおいて「商店のファンづくり〜ICT活用による集客のコツ」と題し、(株)スプラム代表取締役竹内幸次氏による講習会を行った。



竹内幸次氏

竹内氏はインターネットを通じた情報発信の重要性を述べ、特にソーシャルメディアサービスの活用は『店のファン』作りに有効であると強調した。その利点として、お客様の来店頻度の増加や商品の改善点の指摘等よいクレームが集まることを挙げた。さらに、店舗を持たず、タブレット型の端末を使い鮮魚販売を行う事例などを紹

介した。また、ホームページの作成方法やQRコード作り、動画投稿の方法の他、便利なツールも紹介するなど実践的な内容に、熱心にメモを取る姿が見られた。

中心市街地の魅力向上の 方策を学ぶ

商店街(振)高崎中部名店街

商店街振興組合高崎中部名店街(友光勇一理事長、組合員68人)では、2月27日、高崎市・あすなろにおいて、東京大学アジア生物資源環境研究センター教授堀繁氏を招き、「回遊性のある中心市街地のしくみづくり」をテーマに講習会を開催した。堀氏は中心市街地を魅力的にする方策として、目線より下に見えるものの充実がポイントと説明し、「道のベンチの工夫」と「沿道のホスピタリティ表現の充実」を提案した。ベンチはまばらより集中配置する方が楽しさを演出できると説明。また、壁やガラス戸など「拒絶」をイメージさせる物は極力隠し、「歓迎」をイメージさせる「花鉢・のれん・メニュー」などを店頭配置することが重要であると呼びかけた。